

ごあいさつ

近年、人口減少と少子高齢化が進む中、私たちの地域社会を取り巻く環境は大きく変化しています。人と人とのつながりの希薄化により、地域の様々な福祉課題が見えにくくなるだけでなく、課題を抱える個人・家庭が手を差し伸べられることなく社会的に孤立していくことが懸念されます。また、多様な福祉課題の複合化・複雑化に伴い、行政をはじめとした支援機関の横断連携のあり方も問われています。

そのような状況に加えて、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの暮らしは大きな影響を受け、地域福祉に関する活動にもその影響が及んでいます。

こうした現状をあらためて把握するため、住民に対するアンケート調査や地域で活動する皆様による住民ワークショップ、関係団体に対するヒアリングを実施しました。それにより、住民の皆様のご意見や想いを受け止めることができました。

本町の現状を踏まえ、地域福祉の充実のために策定した本計画では、「人と人 心と心をつなぎ みんながあらひのままて暮らせる まちづくり」を基本理念として掲げ、「支え合う“人”と“つながり”の醸成」、「福祉のまちづくりの推進」「安心して利用できるサービスの提供」の3つの基本目標の取組を位置付けました。

住民が地域でつながり、助け合い・支え合いのための様々な活動によって、子どもから高齢者まですべての住民が安心して暮らせる地域共生社会を実現していくため、住民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、本計画の策定にあたり参画いただきました神戸町地域福祉(活動)計画策定委員会の委員の皆様、貴重なご意見をお寄せいただきました住民の皆様、関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

令和5年3月

神戸町長 藤井 弘之

ごあいさつ

人口減少・少子高齢化が進む中で、核家族化、単身世帯の増加といった世帯構造の変化など、地域社会の情勢が変化していくのに伴い、家庭や地域が自然に持っていた相互扶助機能が弱体化し、地域のつながりが希薄化する傾向がみられています。

その一方で、家族や地域との交流が乏しい社会的孤立や複合的な福祉課題の増加により、地域における見守りや助け合いの必要性は増加しています。コロナ禍によりこれらの傾向に拍車がかかっており、地域コミュニティを回復し、地域共生社会の実現に向けての取組が求められています。

そのため、地域の住民が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるように、地域の中でお互いに支え合い、助け合うといった思いやりの気持ちを醸成していくとともに、人と人とのつながりや結びつきを深めていくような、きめ細やかな地域福祉が重要となり、本会が担ってきた役割の重要性が、今まで以上に問われています。

このような状況の下、令和5年度からの「第4期神戸町地域福祉(活動)計画」を神戸町と連携し、住民アンケートをはじめとした、地域住民の意見を反映させる様々な手法を取り入れながら策定を進めてまいりました。

今回の計画では、従来の基本理念をさらに深化させ「人と人 心と心をつなぎ みんながあらりのままで暮らせる まちづくり」としています。地域共生社会を目指す道しるべとして、誰もがあらりのままでいることを認め合い、価値観を強要せず、みんなが寄り添って歩んでいける、そんな地域をイメージしながら、この基本理念を念頭に地域福祉の輪をさらに広げていきたいと考えております。本計画の達成に向け、地域福祉にかかわる皆様のご協力とご参加をお願い申し上げます。

最後に、熱心にご審議いただきました策定委員会の委員の皆様をはじめ、アンケート、住民ワークショップ、ボランティア団体等の意見・要望等の調査にご参加、ご協力いただきました皆様に心より感謝とお礼を申し上げます。

令和5年3月

神戸町社会福祉協議会 会長 若原 和 裕